

福岡県立図書館

令和4年度運営状況に関する評価結果

当館が策定している基本方針及び基本計画を踏まえ、令和4年度重点的に取り組んだ事項と関連する指標についての評価を実施し、その結果に基づき運営の改善を図っています。

基本方針

福岡県立図書館の使命を実現するため、公共図書館をはじめとする県内の各種図書館と連携・協力し、図書館員の専門的能力を生かしながら、資料や情報を収集・保存・提供するとともに、積極的かつ多彩な情報発信を実践します。

目標1：「生涯にわたる学びの支援と情報発信」

幅広く多様な資料・情報を収集・保存・提供し、あわせて多彩な情報発信を行うことにより、県民の学びや課題解決を支援します。

目標2：「子どもの学びと読書へのいざない」

子どもの学びと読書活動の推進拠点として、子どもの豊かで多様な学びを支え、読書の喜びを伝えるお手伝いをします。

目標3：「ふくおかの文化を育む」

福岡県に関する資料・情報を収集・保存・利活用するため、紙資料の収集・保存とともに、デジタルアーカイブの充実を図ることにより、地域文化の継承・発展を支援します。

目標4：「バリアフリーの実現」

県民が、等しく学び、読書に親しむことができる環境を整備することにより、心の豊かさと生きる力を育むお手伝いをします。

目標5：「図書館サービスの推進拠点」

公共・学校・大学・専門図書館やボランティア団体をはじめとする県内の読書関連団体と連携・協力し、電子図書館を含む県全体の図書館サービス向上を目指します。

重点取組の評価基準

評価	内容
☆	計画どおりに実施でき、取組や活動に大きな成果がみられた
◎	計画どおりに実施でき、一定の成果があった
○	改善や課題はあるものの、おおむね計画どおり実施できた
△	取組や活動が不十分であり、計画どおり実施できなかった

指標の評価基準

評価	目標に対する達成率	内容
☆	110%以上	目標が十分に達成された
◎	100%以上 110%未満	目標が達成された
○	90%以上 100%未満	目標がある程度達成された
△	90%未満	目標の達成が十分ではない

目標 1 : 「生涯にわたる学びの支援と情報発信」

幅広く多様な資料・情報を収集・保存・提供し、あわせて多彩な情報発信を行うことにより、県民の学びや課題解決を支援します。

- (1) 専門書・参考図書を中心に紙資料を網羅的に収集するとともに、各種データベースや電子書籍を含むデジタル資料の充実に努め、県民の学び、課題解決に役立つ蔵書構築を目指します。
- (2) 調べ方の案内やレファレンス事例等の蓄積・発信により、国内及び国外の調査研究のための情報共有を促進します。
- (3) 国や県の関係機関等と連携・協力し、県民の学びに役立つ展示や講演会などの共同企画を実践します。
- (4) ホームページやSNS・動画配信等の活用により、多彩で効果的な情報発信を実践します。

1. 4年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
<p>(1) 県民の興味・関心に沿った資料の収集と多様な利用方法の提供促進</p> <p>① 今年度は、重点収集分野のうち「経営」「各産業分野」「行政支援」などに関連する「産業経営」分野を重点的に収集し、アフターコロナの産業構造の変化への対応、行政支援等に関する課題解決に役立つ資料の提供に努めます。</p> <p>② 各種データベースの活用を促進し、図書館利用者の利便性の向上を図ります。</p> <p>③ 不読率が上昇する中高生向け、学びや学校活動に役立つ電子書籍サービスのあり方を検証するため、学校等における電子書籍の活用について調査研究を行います。</p>	<p>① 経営と中心とするビジネス支援や行政支援をテーマとした重点収集分野「産業経営」に該当する資料を中心に 886 冊を収集し、前年度比 12% 増となった。</p> <p>② オンラインデータベースの利用は、2,251 件で、コロナ禍以前の水準を上回る利用があった。</p> <p>③ 学校における電子書籍の活用を調査するため「Librari-E&TRC-DL」において電子書籍利用調査を開始し、小・中・高・特別支援学校から 31 校が参加、延べ 40,831 件の利用があった。</p>	☆
<p>(2) 県民の学び、課題解決への支援とデータの共有・活用</p> <p>① 様々な図書館資料を活用し、レファレンスサービスの充実に取り組みます。特に紙の書籍とデータベース等の電子情報を活用したハイブリッドな情報サービスを推進します。</p> <p>② レファレンス協同データベースへ事例を積極的に登録し、当館の蓄積した情報が広く活用されるよう努めます。</p> <p>③ 県立図書館として、電子書籍においても専門書、参考図書を重点的に収集し、非来館でも課題解決に役立つ資料の収集に努めます。</p>	<p>① レファレンス件数は 49,371 件で、コロナ禍以前の水準に回復してきている。レファレンスにおいて紙資料のほか電子書籍、契約データベース等の多方面からのアプローチを行うことにより、利用者の課題解決を図ることができた。</p> <p>② レファレンス協同データベースに 11 件のデータを登録した。</p> <p>③ 専門・参考図書を提供する電子書籍サービス「KinoDen」に 456 タイトル、「Librari-E&TRC-DL」において子ども・青少年向け学習参考書等を 64 タイトル追加した。</p>	◎
<p>(3) 県民の学びへの興味・関心を高めるような講演会を放送大学等と共同して実施します。</p>	<p>放送大学とのコラボ講演会において、定員を上回る申し込みがあり、関心の高さがうかがえた。また、アクロス福岡と共同主催で読書推進講演会を開催し、図書館や読書に対する興味・関心を高めるきっかけとなるような講演会を実施することができた。</p>	◎

(4)様々なイベントや事業とともに、当館サービスの情報を積極的に発信し、多くの方の参加を促します。	令和3年度に延期した「大腸がん」をテーマにした医療情報セミナーを実施した。また、マスコットキャラクターの更新、学校向けチラシを作成し図書館のPRに努めた。	◎
---	---	---

2. 指標の達成状況について

指標項目	目標値	4年度実績	達成率	評価
購入予算(一般資料分)に占める専門書・参考図書予算の割合	50%	65%	130%	☆
電子書籍の利用数	44,000冊	65,606冊	149%	☆
レファレンス件数(ふくおか資料室・子ども図書館を除く)	41,000件	49,371件	120%	☆
レファレンス協同データベースの利用数	293,000件	221,429件	76%	△
パスファインダーの作成・更新件数(子ども図書館を含む)	18件	11件	61%	△
特集展示の回数	36回	34回	94%	○
展示や講演会などの共同企画に関する満足度	91%	93%	102%	◎
HPトップページ アクセス数	785,000回	823,915回	105%	◎
ツイッター ツイートインプレッション(ツイートを見た数)	1,024,000回	379,101回	37%	△

3. 評価及び今後の取組・改善点について

- 重点取組である「産業経営」分野の資料収集について概ね年度計画どおり実施できた。
- 電子書籍サービス「KinoDen」のほか、令和3年度に導入した「Librari-E&TRC-DL」を用い、学校を対象に「電子書籍利活用調査」を開始し、子どもや中高生、オーディオブックに特化したコンテンツが学校における読書活動に有効か検証を行っている。
- 電子書籍の利用促進のためには、コンテンツの継続的な増加及び利用数増に効果的な広報が課題である。
- レファレンスは、新型コロナウイルス感染拡大防止の行動制限が緩和されたこともあり、面談での利用者がコロナ禍以前の状態に回復傾向にある。しかし、長期的には来館者の減が見込まれることから、物理的環境の影響を受けにくい非来館サービスにシフトしていくことを検討する必要がある。
- レファレンス協同データベースに当館から登録したレファレンス事例は221,429件の利用があった。前年度に比べ減少したものの、参照件数は多く、令和3年度に引き続き運営する国立国会図書館から礼状の贈呈を受けた。今後もレファレンスの質の向上に努めていきたい。
- パスファインダーは、新規テーマで7件作成した。QRコードを掲載するなど、利便性を向上させた。令和5年度は既存のもの情報更新を予定している。
- 読書推進講演会においては、著名な作家を講師に選定し、アクロス福岡と共同で開催することにより、交通の便のよい場所で実施することができた。引き続き、県民の興味・関心を高める講演会を実施し、県民の学びを支援していきたい。
- ホームページへのアクセス数は目標値を上回ることができた。一方、ツイッターインプレッション数は目標値を大きく下回った。これは令和3年度に行った、福岡県にゆかりのあるスポーツ選手やアーティストに関連した本の紹介や展示のような、広く県民の注目を集める企画ができなかったことが要因として考えられる。今後は、更新したマスコットキャラクターや制作したPR動画、チラシの積極的な活用をはじめ、時宜にかなったツイートを行うことで、サービスの利用を促していきたい。

目標 2 : 「子どもの学びと読書へのいざない」

子どもの学びと読書活動の推進拠点として、子どもの豊かで多様な学びを支え、読書の喜びを伝えるお手伝いをします。

- (1) 子どもの本を網羅的に収集・保存・提供するとともに、子どもが読書に親しむための取組や技術の充実を図り、子どもの読書活動を推進します。
- (2) 学校や県学校図書館協議会と連携・協力し、子どもの探求的な学習や読書活動を支援します。
- (3) 読書ボランティアの養成や活動を支援し、市町村の子どもの読書活動推進に資するよう努めます。

1. 4年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
(1) 子ども向け・青少年向け電子書籍等の非来館型サービスの充実と周知を図ります。おはなし会や1日子ども図書館員体験、青少年読書推進講座を開催します。	子どもや中高校生を対象とした電子書籍サービス「Librari-E&TRC-DL」に1,571タイトルを追加した。また、おはなし会を定期的を実施するとともに、「ボードゲーム体験・評価ワークショップ」・「DX時代における青少年読書推進のあり方」について、青少年の読書推進に携わる人に向けた講座を開催した。	◎
(2) パスファインダーやテーマ別ブックリストの作成・更新を行い、学校図書館協議会と連携して各学校での利用促進を図ります。「高校生／ティーンズの推し本」やボードゲーム貸出事業により、学校図書館と連携しつつ、青少年の読書推進に努めます。	パスファインダーは、子ども用1件を新規作成し、青少年用3件を更新した。高校生のおススメ本を読書週間に合わせて11月に展示・紹介した。また、青少年の読書推進につながる図書やゲームの貸出を行った。	◎
(3) 児童サービスの専門研修「子どもと読書」研修会などを実施します。	入門講座及び専門講座を新型コロナウイルス感染症対策を講じながら開催し、子どもの読書活動推進に携わる人材の育成を図った。	◎

2. 指標の達成状況について

指標項目	目標値	4年度実績	達成率	評価
定例おはなし会参加者数	850人	953人	112%	☆
子ども図書館レファレンス件数	4,600件	3,746件	81%	△
子ども図書館・青少年コーナー特集展示等リスト作成回数	15回	54回	360%	☆
子ども情報ルームの学習目的利用数	520件	553件	106%	◎
子ども読書に関するボランティア研修会参加者数	140人	138人	99%	○

3. 評価及び今後の取組・改善点について

- レファレンス件数以外は、概ね目標を達成している。定例おはなし会の参加者や子ども情報ルームの学習目的の利用数に見られるように利用者数も徐々にコロナ禍以前の状況に戻りつつある。
- レファレンス件数が目標値を下回った要因として、レファレンスの大半を占める資料調査について、館内にある所蔵資料検索機が多く利用されていることが考えられる。今後レファレンス件数の動向を注視しながら、引き続き子どもの学びを積極的に支援していきたい。

目標 3 : 「ふくおかの文化を育む」

福岡県に関する資料・情報を収集・保存・利活用するため、紙資料の収集・保存とともに、デジタルアーカイブの充実を図ることにより、地域文化の継承・発展を支援します。

- (1) 福岡県に関する紙資料の収集・保存と並行して、デジタル化を主とする資料の媒体変換を行い、市町村と協力して県全体としてのデジタルアーカイブを構築することにより、福岡県独自の資料・情報の利活用と情報発信を推進します。
- (2) 福岡県に関するレファレンス・ツールの作成とレファレンス事例の蓄積により、国内及び国外の福岡県に関する調査・研究を促進します。
- (3) 地域の出版社や書店と連携・協力し、福岡県に関する出版物等を収集・保存し、利活用のための情報発信を行うことにより、地域文化の継承・発展を支援します。

1. 4年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
(1) 当館が所蔵する資料をデジタル化し、ホームページに掲載します。また、閲覧に支障をきたす資料についてはデジタル化し、原資料の保存に努めます。	「福岡県豊前国小倉市街地図」「大日本商業別明細図 第160号」等地図5点と「画文集 福岡県立図書館のあゆみ」他2点をデジタルライブラリへ掲載した。また「菊池租(みつぎ)館長日誌」他1点をデジタル化した。	◎
(2) 郷土資料に関するレファレンス事例を、ホームページ及び国立国会図書館運営のレファレンス協同データベースに追加掲載します。また、地域に関する人物・雑誌記事のデータベースの充実を図ります。	郷土資料に関するレファレンス質問事例30件を、当館のHPと国立国会図書館レファレンス協同データベースに追加登録した。また、図書や雑誌の内容から福岡に関連する人物文献382件、雑誌記事2,718件を登録した。	◎
(3) ホームページ上に新たに地域の書店を紹介する項目を設けます。また、地域の出版社や書店と連携し、福岡県の出版に関する講演会を行います。	「福岡の書店」を紹介する項目を新たに設け、17件登録した。また、福岡県の出版社との連携事業「明治・戦後の福岡の出版」の講演会を開催した。	☆

2. 指標の達成状況について

指標項目	目標値	4年度実績	達成率	評価
ふくおか資料室の質や量についての利用者満足度	94%	95%	101%	◎
デジタルライブラリへのアクセス数	12,000件	12,990件	108%	◎
ふくおか資料室でのレファレンス質問件数	4,500件	4,682件	104%	◎
国立国会図書館レファレンス協同データベースへの登録件数	30件	30件	100%	◎
ふくおか資料室に掲載の出版社のページへのアクセス件数	1,400件	1,577件	113%	☆

3. 評価及び今後の取組・改善点について

- 重点取組及び指標は目標を達成できた。令和4年度は当館に寄託する資料の継続確認を行った。引き続き寄託者と相談しながらデジタル化を進めていき、デジタルライブラリの充実を図っていきたい。
- 雑誌記事索引や人物検索といった二次資料の作成についても引き続き継続していきたい。

目標 4 : 「バリアフリーの実現」

県民が、等しく学び、読書に親しむことができる環境を整備することにより、心の豊かさと生きる力を育むお手伝いをします。

- (1) 「障害者差別解消法」、「読書バリアフリー法」などに適切に対応したサービスや設備の改善を行うことにより、誰もが使いやすい図書館を目指します。
- (2) 読書に困難がある人へのサービスとして、大活字本やデージー及びマルチメディアデージー図書・LLブック・音声読み上げ機能付電子書籍等を収集・提供し、情報アクセスの向上に努めます。
- (3) さまざまな理由による情報格差を解消するため、先進的な情報技術の活用も視野に入れ、利用案内や検索支援等、県民の情報リテラシー（情報の利活用能力）向上のための情報提供を行います。
- (4) 福岡県で生活する外国人へのサービスとして、また、県民との相互理解を深めるため、日本を紹介する資料や外国語資料の充実に努めます。

1. 4年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
(1) 障がいのある人の図書館利用に対し、適切な合理的配慮を行えるよう職員の資質向上に努めます。	所属研修を実施し、職員の理解を深めることができた。また、バリアフリーサービスに関する研修会への職員の積極的な参加を通して、資質の向上を図りサービスの向上を図った。	◎
(2) 読書に困難がある人への読書機会の充実と情報発信 ① 読書に困難がある人の読書機会の充実のため、多様なバリアフリー資料の収集と提供に努めます。 ② ボランティア活動を支援しデージー図書の製作に取り組むほか、広く情報発信を行い、製作資料の活用に取り組みます。	①紙の本による読書に困難がある人向けの資料として、大活字本 93 タイトル、点字資料 7 タイトル、LL ブック 11 タイトル、デージー図書 139 タイトル、マルチメディアデージー6 タイトルを収集したほか、電子書籍においてオーディオブックや音声読み上げ機能付コンテンツを 778 タイトルを収集した。 ②当館の録音図書製作ボランティアと連携し、121 タイトルのデージー図書の製作を行ったほか、新刊や図書館案内等の情報発信に努めた。また、国立国会図書館へデージー図書データを 180 タイトルを追加登録し、38,757 回利用された。さらに、他の公共図書館と協力してバリアフリー図書読書体験会を実施した。	☆
(3) 障がいの有無にかかわらず、多くの利用者に分かりやすい情報発信を行い、調べもの支援に関するホームページの充実に努めます。	ホームページの各コンテンツ作成にあたり、音声読み上げに対応した構成となるよう努めた。	○
(4) 本を活用した外国人への読書機会の提供と日本語や文化に対する理解の支援 ① 福岡県内に在留する外国人にとって、日本語の習得や文化の理解に役立つ資料の収集に努めます。 ② 日本語の習得や日本語を母国語としない子ども向けの電子書籍の充実に努めます。	①英語で書かれた本や外国人に日本文化等を紹介・解説した本を中心に、235 冊を収集した。 ②英語を中心に多言語対応のコンテンツのほか、日本語以外を母国語とする人向けの日本語習得用コンテンツ 25 タイトルを収集した。	◎

2. 指標の達成状況について

指標項目	目標値	4年度実績	達成率	評価
読書に困難がある人向け図書の受入タイトル数 (電子書籍以外)	220 タイトル	256 タイトル	116%	☆
読書に困難がある人向けコンテンツの提供数(電子書籍)	700 タイトル	778 タイトル	111%	☆
録音図書貸出点数(個人団体全件)	2,100 冊	2,144 冊	102%	◎
国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービス利用数(当館登録分)	23,000 件	38,757 件	169%	☆
検索支援のページ(HP)へのアクセス数 (調べものをするページのアクセス数)	3,600 回	4,045 回	112%	☆
障がい者サービスのページ(HP)へのアクセス数	400 回	1,501 回	375%	☆
外国人向け及び外国語図書の受入数	200 タイトル	235 タイトル	118%	☆
外国人向け及び外国語コンテンツの提供数(電子書籍)	40 タイトル	25 タイトル	63%	△

3. 評価及び今後の取組・改善点について

- ・ 読書に困難がある人向けの書籍数は少ないため、出版情報の収集に努め計画的に収集した。
- ・ 電子書籍の選書時にオーディオブックや読み上げ機能対応のコンテンツに留意しながら重点的に収集した。
- ・ 国会図書館へのデジータ登録数の増加に伴い利用数も増加傾向であるが、当館から国会図書館への1回あたりの登録数が限られていることから、将来的には利用数は頭打ちになる可能性がある。
- ・ 検索支援のページ、障がい者サービスのページとも、多くのアクセスがあった。引き続き障がいの有無にかかわらず、わかりやすいページの作成や音声読み上げページの改善に努めていきたい。
- ・ 外国人向け及び外国語図書の収集については、読書に困難がある人向け資料と同様に出版情報や入手の確保が難しいなか、可能な限り収集に努めた。電子書籍は令和3年度にコロナ予算を活用し網羅的に収集を行ったため、新規リリースの収集に留まった。引き続き外国語資料対応の電子書籍の収集に努めていきたい。

目標 5 : 「図書館サービスの推進拠点」

公共・学校・大学・専門図書館やボランティア団体をはじめとする県内の読書関連団体と連携・協力し、電子図書館を含む県全体の図書館サービス向上を目指します。

- (1) 研修事業を充実するとともに、図書館運営等に関する情報提供や各種相談に対応し、新たなサービス等についての調査研究を行うことにより、県内公共図書館等職員の育成支援と技術の継承を図ります。
- (2) 資料配送業務を含む「福岡県図書館情報ネットワーク」の運営により、相互貸借や共同研修の企画など、図書館の館種を越えた連携・協力を推進します。
また、電子書籍の本格的導入により、非来館型サービスを展開し、ネットワークの充実を図ります。
- (3) 図書館ボランティアと連携し、ボランティアの育成を支援することにより、官民の垣根を越えた図書館サービスの充実を目指します。

1. 4年度重点取組について

取組内容	取組状況	評価
(1) 各種研修の充実を図り、市町村立図書館等職員の資質向上に努めます。	市町村図書館のニーズをとらえながら、講演や事例発表を盛り込んだ研修会を行い好評を博した。	◎
(2) 福岡県図書館情報ネットワークにより県内の各図書館との連携を推進し相互貸借の活性化に努めます。 また、電子書籍の充実を通じて、非来館型サービスの向上に努めます。	県内の市町村立図書館のほか、大学等とも連携し、資料の相互貸借を行った。 また、県内図書館でのレファレンス等に役立つよう、電子書籍 KinoDen 内に、テーマ別に調べものに役立つ書棚を作成し、参考図書等を紹介した。	◎
(3) ボランティア養成講座を実施し、図書館サービス向上に資する人材の育成に努めます。	音訳ボランティアの資質向上を図る研修会をオンラインで開催し、当日参加が 151 名、後日の YouTube 配信を 66 名が希望し、304 回視聴された。また、録音図書制作ボランティア養成講座を 3 年ぶりに開催した。	◎

2. 指標の達成状況について

指標項目	目標値	4年度実績	達成率	評価
図書館職員等対象研修参加者満足度	100%	99%	99%	○
県内公共図書館等への職員派遣(講師・委員・相談等)回数	30 回	53 回	177%	☆
資料配送業務の取り扱いコンテナ数	6,200 個	6,878 個	111%	☆
「福岡県図書館情報ネットワーク」の参加館数	68 館	68 館	100%	◎
市町村図書館等が利用した横断検索数	164,000 回	131,691 回	80%	△
ボランティア向け研修参加者数(点録協等他室も含む)	200 人	283 人	142%	☆

3. 評価及び今後の取組・改善点について

- 市町村立図書館等の職員研修の満足度については、99%と高い評価を得ることができた。今後も充実した内容の研修を実施し、県内公共図書館等職員の資質向上に努めたい。
- 資料の相互貸借についてはコロナ禍以前の水準を回復しており、引き続き利用の活性化に努めたい。横断検索数が目標値を下回った点については、画面レイアウトの変更により検索効率が改善したことにより、少ない回数で検索できるようになったことが要因の一つとして考えられる。今後もより利用しやすい横断検索となるよう工夫していきたい。

用語の説明

レファレンス（サービス）（1 頁、2 頁、3 頁、4 頁）

利用者が情報あるいは資料について図書館員に尋ねる質問。来館の利用者からの質問だけでなく、手紙、ファックスなどの文書による質問、電話、電子メールなどの通信手段を利用した質問もある。図書館員がこの種のレファレンス質問を受けて回答することは、レファレンスサービスの中心的な業務である。

パスファインダー（2 頁、3 頁）

あるテーマについて調べるときに役立つ資料（図書・雑誌・データベース・ウェブサイト）や情報の探し方を簡単に紹介したもの。用紙での提供やホームページ上に公開している。

レファレンス協同データベース（2 頁、4 頁）

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築している、調べ物のためのデータベースである。

定例おはなし会（3 頁）

当館が行っている「赤ちゃんのおはなし会」「小さな子のおはなし会」「小学生のおはなし会」の3つをいう。

〔赤ちゃんのおはなし会〕

水曜日 午前11時から

奇数週（第1・3・5週）は0歳児向け、偶数週（第2・4週）は1・2歳児向けの内容。

わらべうた・手遊びなどを、赤ちゃんと一緒に楽しむプログラム。

〔小さな子のおはなし会〕

土曜日（第1・3・5週） 午後2時から

布の絵本、絵本、紙芝居、おはなしなどのプログラム。

〔小学生のおはなし会〕

毎週 土曜日（第2・4週） 午後2時から

ストーリーテリング、絵本などのプログラム。

デジタルアーカイブ（4 頁）

有形・無形の文化財をデジタル情報として記録し、劣化なく永久保存するとともに、ネットワークなどを用いて提供すること。

大活字本（5 頁）

弱視者用に大きな活字で印刷された図書。大型活字本ともいう。実際には、印刷方式にかかわらず、文字の大きな図書の総称としても用いられる。高齢者の利用もある。

デイジー（5 頁）

マルチメディアデイジー（5 頁）

デイジー(DAISY)とは、Digital Accessible Information System の略称。

活字による読書が困難な人々のための国際的なデジタル録音資料制作システム。近年は音声だけでなく、画像やテキストデータとともにインターネットでも提供できるマルチメディア対応型記録媒体となっている。DAISY 資料は、カセットテープに比べて、検索機能や収録時間、音質などの点できわめて利便性に富む。再生には専用プレイヤーまたは編集用ソフトウェアが必要。2009(平成 21)年の「著作権法」改正により、公共図書館においても著作権者に無許諾で DAISY 資料を制作できるようになった。

障害者差別解消法（5頁）

《「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の通称》障害者基本法の基本理念に沿って、障がいを理由とする差別を解消するための措置などについて定めた法律。障がいのある人に対する不当な差別的取扱いを禁止し、行政機関や事業者に対して合理的配慮の提供を求めている。平成28年(2016年)4月施行。

LLブック（5頁）

LLはスウェーデン語で「やさしく読みやすい」を意味する言葉の略。知的障がいや学習障がいなどがある人々も楽しめるよう、内容を理解する助けとしてイラストや写真、記号を多く添えた本。「えるえるぶっく」という。

福岡県図書館情報ネットワーク（7頁）

県内の公共図書館及び図書室で「相互貸借」のネットワークを構築しており、自館に所蔵していない資料を他館から借りることが可能である。また、県内公共図書館の蔵書の横断検索システムと連動し、横断検索の結果、所蔵館に対してインターネットを介しての貸出申込みや回答が可能である。

【参考文献等】(順不同)

- ・図書館情報学用語辞典 第4版
- ・国際交流基金国際センター図書館のしごと
- ・国立国会図書館データベースホームページ
- ・小学館デジタル大辞泉